

## 令和2年7月豪雨時の避難行動に係る アンケート調査結果を公表します

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、避難所以外への避難や事前の避難先の検討等をお願いしてきた中、市民が実際にどのような避難行動をとったのか、アンケートを基に検証しましたので公表します。

### ■アンケート対象者

山口地区（第2・5・11町内会）	91世帯中、53世帯回答
坂下地区（6区、7区西方寺・握）	348世帯中、173世帯回答
付知地区（1区下浦・宮の上）	40世帯中、29世帯回答

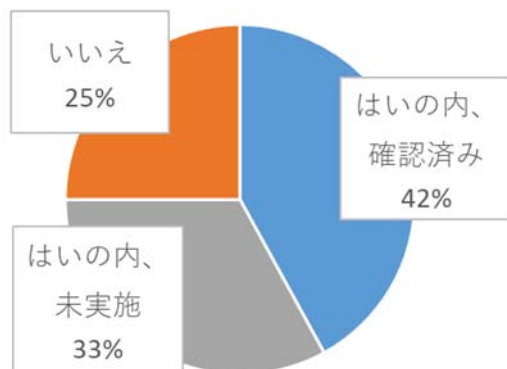
※回答率53.2%

※特に危険が迫り、個別に避難指示（緊急）を発令した地区を対象として実施

※自治会加入世帯へ地区を通じて調査を実施

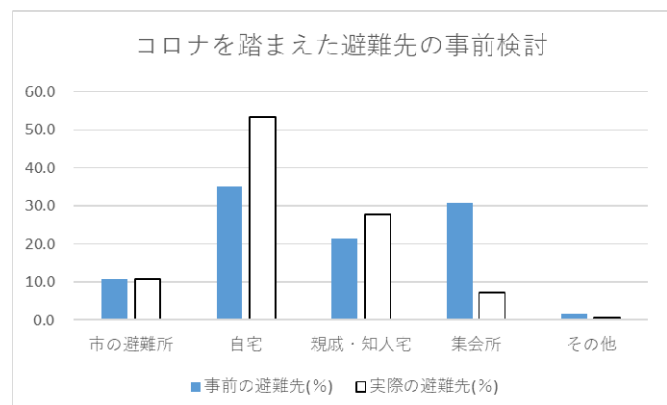
### ■調査結果概要

・事前に避難先を決めているか、また、避難先と道中の安全確認を行っているか



※事前に避難先を決めている世帯は75%にも上るが、その避難先や道中が安全かどうかハザードマップ等で確認している世帯は42%と落ち込んでいる

・市の避難所以外への避難の事前検討の効果



※市の避難所に殺到しないよう、事前の検討をお願いしたため、市の避難所への避難者は限定的で、密を避けるため、自宅や親戚等への避難者が増えたものと思われる

※詳細は、別紙「令和2年7月豪雨時の避難行動に係るアンケート調査結果」参照

### ■課題

- ・ハザードマップ等を活用した“避難先の事前検討”があまり進んでいない
- ・早めの避難を行うことが浸透していない
- ・“避難＝外へ”という思いが残っており、自宅が避難先となることが浸透していない

### ■今後の方針

- ・避難先の事前検討、自宅でも避難先となることの啓発、早めの避難の浸透を中心とした避難行動に重きを置いた防災訓練になるよう自主防災会と連携していく

お問い合わせ先

総務部 防災安全課 防災対策係 上田 千尋  
電話：0573-66-1111（内線163）

## ◆ 令和2年7月豪雨時の避難行動に係るアンケート調査結果 ◆

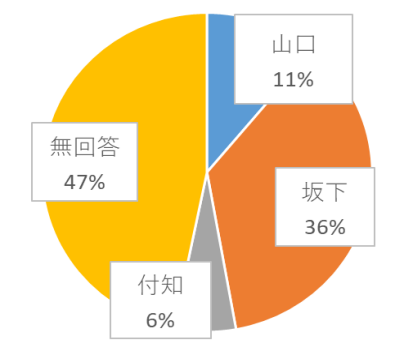
令和2年7月豪雨では、降り始めからの降水量が付知で1094.5mm（平年値344.2mm）、中津川で676mm（平年値270mm）となり、大雨特別警報が発表されました。6日から8日にかけて付知周辺で、11日には中津川周辺で大雨となりました。

市内では、幸いにも人的被害はなく、床下浸水14件、非住家浸水8件、道路・河川の損壊139件、農業用施設の損壊107件でしたが、全国的には、熊本県を中心に死傷者116人、住家被害17,679件と甚大な被害が発生しました。

また、避難所では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止を行う必要があり、広報誌や折込みチラシを通じて、市が開設する避難所以外への避難、事前の避難先の検討や安全確認をお願いさせていただいてきたところです。

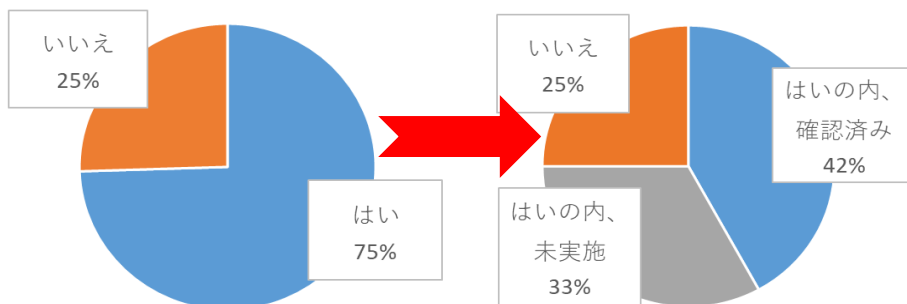
こうした状況を踏まえ、次の災害に備えるため、市では、「市民が実際にどのような避難行動をとられたのか」という点について、山口（第2・5・11町内会）・坂下（6区、7区西方寺・握）・付知（1区下浦宮の上）地区の皆さまにご協力をいただき、アンケート調査を実施しましたので、その結果をお知らせします。

### ■回答数



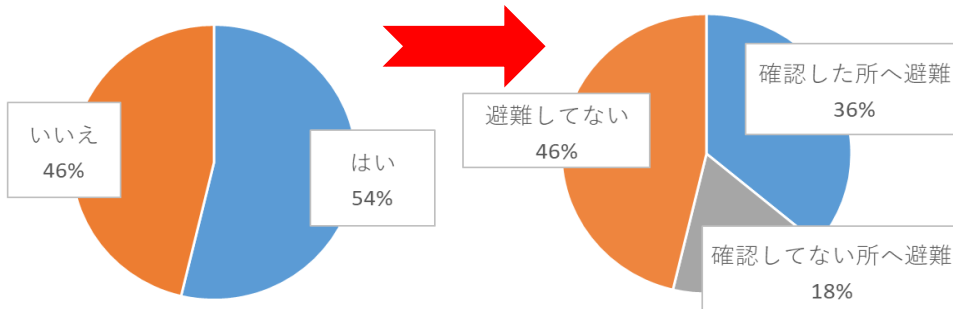
	アンケート 依頼世帯数	回答世帯数	地区毎の回答 率(%)
山口	91	53	58.2
坂下	348	173	49.7
付知	40	29	72.5
合計	479	255	53.2

### ■事前に避難先を決めているか、また、避難先と道中の安全確認を行っていますか



※事前に避難先を決めている世帯は75%にも上るが、その避難先や道中が安全かどうかハザードマップ等で確認している世帯は42%と落ち込んでいる

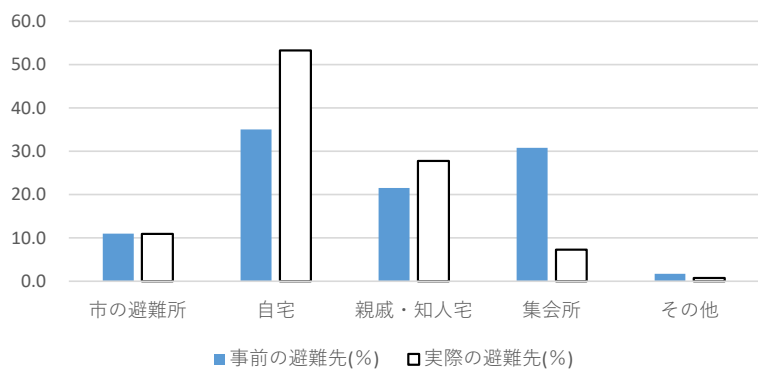
### ■実際に7/6～8に避難したか、また、避難先と道中の安全確認を行っていますか



※実際に避難行動を行う時になると、川や雨の様子を最後まで見て、自宅に留まる世帯が多い。

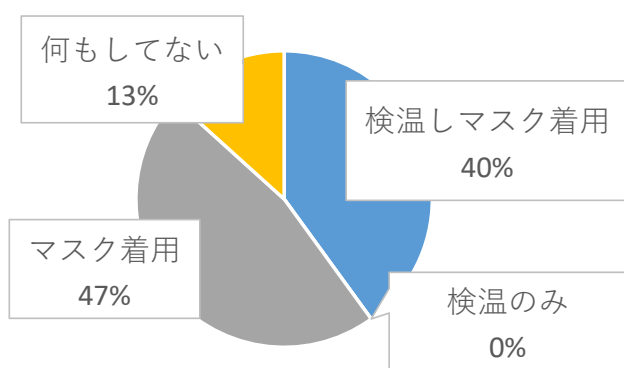
また、自宅でも安全確認を事前に行った上で、2階や川や山から離れた部屋に移動される分には良いが、安全確認を行っていない所へ避難される世帯の割合が18%と多い。

### コロナを踏まえた避難先の事前検討



※新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐため、市の避難所に殺到しないよう、事前の検討をお願いしたため、市の避難所への避難者は限定的で、密を避けるため、自宅や親戚等への避難者が増えたものと思われる

### 市の避難所へ来られた方のコロナ対策



※マスク着用をお願いしているが、着用していない方や、検温の実施が思うように行われていない

#### ■課題

- ・ハザードマップ等を活用した”避難先の事前検討”があまり進んでいない
- ・最後まで川や雨等の状況を確認し、空振りでも良いので早めの避難を行うことが浸透していない
- ・高齢者や身体が不自由な方、小さい子、ペットがいる世帯の避難が鈍くなる傾向がある
- ・”避難＝外へ”という思いが残っており、気象情報や周囲の状況によっては、自宅でも安全であれば留まる（＝避難した）という考えの浸透が必要となっている

#### ■今後の方針

- ・自分の命は自分で守る、避難先は自分で検討し確保することを浸透させる
- ・地域や家庭でのハザードマップ等を活用した”避難先の事前検討”や”危険箇所の確認”を行う取組みを自主防災会と連携し行う  
また、自宅でも避難先となり得ることの啓発を併せて行う
- ・大雨特別警報や避難勧告等が、どのような状況の場合に出されるのかお知らせし、早めの避難の有効性を浸透させる
- ・高齢者や身体が不自由な方、小さい子、ペットがいる世帯の避難が進むよう受け入れ体制の検討を行っていく

★ 避難される際は、長引かないと思われる状況でも、

最低限、**飲み物・食料・簡易な寝具や座布団・タオル** はご持参ください